

令和7年度 第1回我孫子市環境審議会 会議概要

- 日 時：令和7年11月25日（火）午後2時05分～午後4時04分
 - 場 所：我孫子市役所西別館4階会議室
 - 出席者：6名
齋藤委員・浅井委員・吉田委員・宮川委員・本多委員・野中委員
 - 欠席者：5名
山田委員・今井委員・金森委員・佐々木委員・朴委員
 - 事務局：岡田環境経済部次長兼生活衛生課長
嶋田手賀沼課長（幹事）・川村資源循環推進課長
飯泉課長補佐・遠藤係長・野澤主査・水谷主任・村尾主任主事
 - 傍聴者：なし
 - 議 題：（1）あびこエコ・プロジェクト5の進捗報告について
（2）あびこエコ・プロジェクト6の素案について
（3）手賀沼浄化について
-

開 会

審議会委員の交代について

- ・環境審議会委員のうち、吉川委員より委員の交代の申し出があったため、本多委員が選任された（本多委員の任期は残任期間となる）。

議 題（議事進行：齋藤会長）

（1）あびこエコ・プロジェクト5の進捗報告について

事務局より、資料1「令和6年度温室効果ガス排出量等調査結果報告書（案）」に基づき説明（以下、概要を記載）。

- ・我孫子市の事務事業で排出された温室効果ガスのうち「電気・燃料・公用車の使用に伴う温室効果ガス排出量」は、令和6年度末で8,185t-CO₂となり、基準年度に比べ22.1%削減した。令和7年度末の目標値は23%削減であるが、順調に推移している。
- ・「一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量」は17,466 t -CO₂ となり基準年度に比べ13.2%増となった。

- ・両者を合わせた令和6年度の温室効果ガス総排出量は25,967t-CO₂となり、基準年度に比べ1.2%減となっている。令和7年度末の目標値は12%削減であるので現時点での削減量は1割程度の状態。
- ・施設における燃料の使用量が基準年から大きく変化している項目をみると、軽油は前年より約1,300L増となった。これは水道局で非常用発電装置の更新で、備蓄用燃料が軽油となったためと報告を受けているが、実際の使用量について現在精査中。灯油の増は、クリーンセンターの新焼却炉の環境汚染対策でダイオキシン類の発生を抑えるために使用する助燃バーナーの使用頻度が旧焼却炉よりも多いこと、令和6年度は水分量の多いごみの焼却が増えたためと考えている。
- ・電力使用では、使用量は大きく変わっていないが、排出係数が小さい電力会社と契約ができたことで温室効果ガス排出量が低減した。
- ・環境への負荷低減の項目では、低公害車の割合が53.7%まで上がってきている。再生可能エネルギーの導入は、令和5年度にクリーンセンターでバイオマス発電を導入したことで令和6年度に水道局湖北台浄水場で太陽光発電設備を導入したことで2,295kwとなり目標を達成した。

<質疑応答>

○宮川委員

ごみ焼却に伴う温室効果ガスの排出量が一番多いとのことだが、それに対して具体的な対策は何か検討したか。

○事務局

次期計画であるあびこエコ・プロジェクト6でもごみの焼却に伴う温室効果ガスの削減が課題になる。ごみの排出量自体は減らすことが難しい見通しのため、燃えるごみに含まれる廃プラスチックの率を下げるとというのが一つの方策かと考えている。市役所内部でリサイクルできるものを分別することはもちろん、市民への呼びかけも検討を進める。

○吉田委員

新しいクリーンセンターの稼働はいつからか。新しいクリーンセンターになってごみ処理効率が上がり温室効果ガスの排出量が下がるということはあるか。

○事務局

令和5年度から稼働開始した。新しい焼却施設になって温室効果ガスを削減する機器が備えられたということではない。なお現在、新リサイクルセンターを令和12年度から稼働する計画で準備を進めている。それができた際は容器包装プラスチックの他に、バケツなどの（製品）プラスチックも分別して収集することを考えており温室効果ガスの低減ができると思う。

○宮川委員

令和12年度とはだいぶ先だがなぜ時間がかかるのか。新しいクリーンセンター（焼却施設）を作るときにリサイクルセンターの建設も併せて作るのが一般的と思う。

○事務局

新しいリサイクルセンターの建設予定地には旧クリーンセンターがありそれを解体したのちに建設工事となる。焼却施設とリサイクルセンターを同時整備する例があるのは承知しているが、当市では事業費や事業に充てられる職員数などの課題がありこのスケジュールとなった。

○齋藤会長

令和12年度稼働だと次期のエコプロ6では効果は期待できないのか。

○嶋田幹事

令和12年度はエコプロ6の最終年度なので、どのくらい減らせるかだが、それだけでは目標達成は難しいので他にも考える対策があると思う。

○齋藤会長

軽油の使用量について今後精査して数値を出すということでよいか。

○事務局

そうなる。非常用発電用の燃料を入れ替えた際の購入量であればその数値で計上するのは疑義がある。点検等で使用した分がどれだけあるかをふまえて修正をしたい。

○宮川委員

この備蓄燃料の用途は何か。

○嶋田幹事

水道局妻子原浄水場の非常用発電装置の燃料である。停電時にポンプを回して水道水の供給ができるようにするためのもの。

○宮川委員

備蓄燃料の耐用年数というか劣化はないのか。

○事務局

非常用発電装置の燃料タンクは毎年耐圧試験を行うが、その際に燃料を引き上げタンク内の不純物の清掃をしたうえで入れ替えているのでこれまで燃料の劣化による入れ替えというのはしていない。

○吉田委員

エコプロ5の目標は達成ができるとは言えない状況となっているが、この報告の中でどのように総括されることになるか

○嶋田幹事

各年度の温室効果ガスの排出状況についてはホームページで報告をしている。現時点で未確定の部分があるのでそれを確定したうえで報告する。エコプロ5で達成できなかった点については次期のエコプロ6に引き継ぐことになる。

○浅井委員

標記の仕方で、「基準年度に比べマイナス〇%削減」となっている箇所があるが、マイナスは不要なのでチェックしてほしい。

○事務局

チェックして訂正する。

(2) あびこエコ・プロジェクト6の素案について

事務局より、資料2に基づき説明（以下、概要を記載）。

- ・「1. 計画概要（p.1）の「①これまでの市の取組」の最新実績は議題（1）で説明したとおり温室効果ガスは基準年度に対し1.2%削減で未達成の見込み。②エコプロ6の計画期間は令和8年度から12年度までの5年間。基準年度は令和6年度となる。
- ・「2. 計画の役割」（p.2）では、市の地球温暖化対策実行計画を市の事務事業を対象とする「事務事業編」と市域全体を対象とする「区域施策編」を2つの柱として取り組みを推進する。
- ・「3. 目標設定について」（p.3～4）では、①燃料・電気・自動車の利用に伴う温室効果ガス排出量については基準年度に比べ31%削減とする。これは国の地球温暖化対策計画の目標に基づき設定した。②ごみの焼却・し尿処理に伴う温室効果ガス排出量については基準年度に比べ9%削減とする。こちらは当市の一般廃棄物処理基本計画（にある令和

12 年度のごみ排出量目標値）と整合を取り算出したものである。①と②を合算した総排出量の削減目標は 15%削減となる。

- ・「4. 取り組みについて」（p.4～6）では、現在のエコプロ 5 の取り組みを引き継ぎつつ、①～⑤の項目に設定し直した。取り組み内容については組織的に取り組むことと職員ひとり一人が取り組むことを整理している。

【主な意見】

○齋藤会長

エコプロ 6 の温室効果ガス総排出量については、資料 1 の令和 6 年度の数値と異なっているのはなぜか。

○嶋田幹事

議題（1）で説明した令和 6 年度の値はエコプロ 5 の算出方法で出した温室効果ガス排出量の値を載せた。一方、エコプロ 6 では環境省の LAPPS というシステムを使って算出した値を使うこととした。またエコプロ 5 はごみの焼却に伴う温室効果ガス排出量算出の際に使う廃プラ率を 18.1%という統一した値を使っていた。しかしエコプロ 6 の基準年の値については令和 6 年度に行ったごみの組成調査で得られた年平均値を使って総排出量を求めたため高くなった。

○宮川委員

取り組み内容については非常によくまとめられている。PDCA サイクルの計画（P）はよい。今後の行動（D）にあたりチェック（C）し実行（A）できるかがポイント。この取り組み内容で効果が表れるのか、チェックされているのか危惧を感じる。

○嶋田幹事

燃料・電気・自動車の利用についてはエコプロ 5 でも目標に沿って削減しているが、ロードマップのようなものでチェックできていたかという点と反省すべき点がある。エコプロ 6 の取組の策定にあたっては事務局である手賀沼課だけでなく、資産管理課や教育委員会、資源循環推進課なども含めて協議をしている。太陽光発電設備や LED 照明の導入のほか、契約する電力会社の排出係数の低減によって、燃料・電気・自動車の利用に伴う温室効果ガス排出量は削減目標をクリアできると考えている

が、それらの取り組みを5年間でどう計画していくか、どこまで実施できたかということをエコプロ本部会議の中でも見ていく必要がある。

○齋藤会長

市民を巻き込まないと達成できないのではないかと思うが、区域施策編についても議論していかなければならないことになるか。

○嶋田幹事

エコプロ6の取組③ごみの減量・リサイクルについては、まず市職員が率先してやっていくことが必要だと思っている。その先に市民の皆さんへの協力要請となるが、それについてはご意見をいただきたい。

○宮川委員

地域では在住外国人が増えておりごみの分別が守られない場合もある。分別について、地域の広報誌では外国語表記で呼びかけを行っている例もある。この問題は解決がなかなか難しいが啓発は大事。広報で一定のスペースを確保して粘り強く訴えていくことも必要。ごみ問題と地球温暖化対策を関連付けた広報は今までしていないと思うので、一つの切り口になる。

○齋藤会長

我孫子市のごみ分別のパンフレットは英語、韓国語、中国語、スペイン語、ベトナム語、ネパール語版があるのではないか。

○事務局

ご指摘のとおり6か国語で作っておりホームページでも閲覧できる。外国人の方にもうまく伝えられないときは市職員が出向いて説明することも考えられるので、生活衛生課にご相談いただければと思う。

○宮川委員

6か国語で対応が十分か。

○事務局

言語によっては翻訳してくれる方を探すのが難しい。なるべく対応できるよう準備しなければと考えている。

○宮川委員

言語の面では国際交流協会とタイアップできるのではないか。青年海外協力隊の経験がある方もいるかもしれない。

○事務局

我孫子市国際交流協会（AIRA）には相談したい。ごみ収集に関する今後の工夫として、資源回収時に使う回収袋に英語も併記することは考えてみたい。

○浅井委員

ごみ集積所ではいろいろなトラブルが起きる。それに最初に対処するのは自治会。ネパール語のパンフレットがあることを自分も自治会役員になって初めて知った。各自治会もアイデアを持っていると思うので、自治会と連絡を取り合って（互いのアイデアを）使えるようにすることもいいのではないかな。検討してほしい。

○事務局

ご指摘のとおり現場で対応される自治会の方が一番苦労しているので、各自治会に広く周知できる方法を工夫していきたい。

○野中委員

ごみ袋の有料化をしている自治体もあるが、我孫子市はなぜ無料なのか。

○事務局

自治体により指定の有料ごみ袋で収集したり、ごみ袋に処理代をのせたりしているが当市では行っていない。有料化のメリットとして分別や減量が進むことがあるが、市民に買っていただくことで負担も生じる。今後財政上どうしても有料化しなければならなくなれば検討も必要かと思うが現時点では計画されていない。

○野中委員

もう1点、先ほどのパンフレットの翻訳について、相談をいただければ自分の周りにできる方がいないか呼び掛けることはできる。

○事務局

ネパール語版を作った時もいろいろ伝手を頼ってボランティアでお願いした。今後新たな言語に対応しなければならなくなった場合にはご相談させていただきたい。

○齋藤会長

最近ではA Iを活用することもできると思う。

（3）手賀沼浄化について

事務局より、手賀沼浄化について市が行っている取り組みのうち、手賀沼浄化啓発の部分を資料3に基づき説明（以下、概要を記載）。

- ・手賀沼が全国の湖沼の水質ワースト1を脱出してから25年が経つ。水質は大幅に向上したが環境基準には達せず、COD年平均值では10mg/L前後で推移している。
- ・手賀沼課としては環境基本計画の基本目標2と4に掲げた施策に沿って主に浄化啓発事業を実施している。その中では市民団体等と連携した取り組みも実施。今年度は手賀沼流域フォーラム（構成団体：美しい手賀沼を愛する市民の連合会、我孫子市など流域7市など）が、手賀沼で絶滅した水生植物「ガシャモク」を市民参加で育てるワークショップを開催した。
- ・手賀沼の水質が全国ワースト1であったことを知らない人も増えている。なぜ浄化の取り組みを続けるのかを伝えきれていない。今後どのようなアピールすべきかご意見をいただきたい。

【主な意見】

○宮川委員

遊歩道のアヤメが植えられていたところ（水生植物園）に草が多く茂っていて寂しかった。事情があると思うがアヤメが咲いていると人も寄ってくる。手賀沼の中州のようなところには鳥もいた。自然の美しさが大事なのではないか。手賀沼の自然を感じられるようにしたい。

また、沼が汚濁した原因をもっと知ってもらうべき。我孫子市が手賀沼を汚したと思われるのは残念。

○嶋田幹事

手賀沼の汚濁の原因や現在の状況を知っていただくことが大事だ。浄化の基本的な情報も改めて丁寧に出していく必要がある。

○野中委員

ガシャモクのワークショップは初めて知った。子どもの学習に手賀沼浄化を取り入れてもらっているのはとてもありがたい。手賀沼に興味のある人は多く、手賀沼100人会議というイベントも行われている。またワースト1時代を知らない人がいるという話があったが、逆に水がきれいだったころのことを知ってもらおうというのも大切。昭和初期には手賀沼にシジミを取りに行ったり泳いだりした話を聞いて悔しい気持ちになった人もいる。周りの人とウナギの棲めるようになるといいという話もあり、ウナギを絡めたイベントができるといいかと思っている。市民レベルで何かやるときに市の協力が得られるか知りたい。

○嶋田幹事

手賀沼に関して何かしたいという人が多いのは考えるべき。市が関わって新たなイベントを作っていくのはマンパワー的に難しいが相談は受けていきたい。

その場所の象徴的な生き物を掲げて取り組みを進めるというのは非常に分かりやすい。ウナギは（手賀沼にとって）重要な存在だと思っている。新しい動きがあるということは市としても抑えておくべきと感じた。

○齋藤会長

手賀沼で空心菜を育てられないかという計画をしている人もいたと聞いたことがある。手賀沼の浄化をしたいという人はたくさんいると思う。

○本多委員

これまでの活動がすごくいいのではないと思う。過去には汚れていたところが、今は人が集まるようなきれいな状況まで持ってこられたのは浄化に関わった方々のご努力の成果であり、そういう環境を作っていたことにすごく感謝している。

今後の目標について、ガシャモクが元のように育つようにするとかアイデアはあるが、そういった具体的なものをイメージした中で、それを達成するためにはこういうものが必要、というアプローチから考えていったら良い。例えば COD は環境基準に達していないがこういう部分では改善できたという、成功体験みたいなものが集まっていくと、もっとよくしよう、次は何をしようというアイデアが出てきやすくなるのではないかな。

○吉田委員

情報発信について、SNS の活用状況はどうか。

○嶋田幹事

市のホームページ上の手賀沼情報をチェックしたが、掲載しているページがバラバラで、このページを開けば手賀沼のすべてがわかるという状態になっていない。SNS もどう活用したらよいかわからないのが現状。

○齋藤会長

中央学院大学と市で、学生の政策提案事業をやっている。大学生に関わってもらうのもよいかもしれない。良かったらご協力したい。

○野中委員

外来水生植物の駆除をずっとやっている。手伝いたいという人がたくさんいるが、参加情報をどこで見ればいいのかわからないという人もい

る。別の市民団体さんがやっている活動などがバラバラではなく、全部まとめたサイトなり SNS があったらよいと思う。

ワースト 1 という不名誉な歴史があるが、香川県豊島（てしま）のように、ワースト 1 だったからこそできた V 字回復というストーリーを描いたらどうか。

また先日あるサロンで地元の農家さんの話を聞いた。八十八か所巡礼の地でもあり、市民の方が沼への畏敬の念を持ち祈りの地のようにになると他とは違った魅力が出るのでは、という話があり共感した。

○嶋田幹事

ワースト 1 の歴史を逆に生かすというご指摘があった。水の館でも美しいころの手賀沼の姿しか展示していない。水質が悪化した状況が市民の皆さんが大変な努力をしてここまで来たという歴史を示すことは必要かと思う。今、1 階の手賀沼ステーションでは美しい手賀沼を愛する市民の連合会が作成した DVD 作品を上映しているが、それらを通してそういう歴史も上手に伝えたい。

6. 傍聴者の発言

傍聴者がなかったため、発言はなし。

7. 閉 会